

# 北海道版「トクホ」好調

## 独自に機能性食品認定

健康志向の高まりを背景に、北海道が「健康機能性食品」を独自に認定する制度「ヘルシーD.O.（ドゥ）」が8月から始まった。国が管轄している特定保健用食品（以下「トクホ」）のように、自治体が健康食品を認定する取組みは全国初。道内外での発売開始とともに反響もよく、売上げも驚くほど伸びているという。地元産の加工食品に付加価値を付けて訴求したいという思いは、多くの地方自治体を持つ課題。今回の北海道独自の取組みに注目が集まっている。

北海道独自の健康機能性食品「ヘルシーD.O.」の認定条件は、道内で生産・製造された素材を使い、道内で製造され、製造事業者が自ら販売する食品。さらに健康なヒト実験を国内で行い、その研究論文が複数の専門家による評価や検証を経て

学術論文誌に掲載されていることとなっている。初回の認定を取得したのは体の免疫力が高める効果があるとされるAHCのサプリメントや、抗酸化作用があるとされるオリゴ糖が配合された「ドーナツやキャラメルなど」の品目。

だが、商品にはトクホのように「脂肪の吸収を抑える」「血糖値を下げる」などの効能表示はない。ヘルシーD.O.は、あくまで北海道が、機能性に関する研究が論文誌に掲載されていることなどを条件に独自に認定

したもので、消費者に分かりやすい効能表示はできない。にもかかわらず、発売と同時に話題となり、例年の倍以上売上げを伸ばしている商品もあるという。消費者の健康への関心の高さと同時に、「お墨付き」のような肩書きに弱いことも伺える。

国の管轄するトクホは、通常の商品よりも割高であるにも関わらず、売上げは好調で、2011年度のトクホ市場は5000億円ともいわれている。しかし、トクホの効果証明の費用には、1商品当たり2〜3億円かかることさ

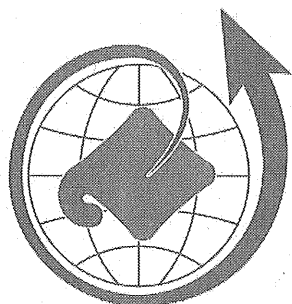
れ、中小企業には大きな負担。一方、ヘルシーD.O.は審査期間が短く、費用もトクホの10分の1以下となっており、道内に製造拠点を持てば道が認定したマークを付け全国に販売できるため、中小企業を中心に注目が集まっている。

機能性食品認定の取り組みは、北海道・コンプレックス国際戦略総合特区（以下、フード特区）事業のなかの一環。国内外からの観光客が多いという利点を活かして道で「東アジアの食の中心」と位置づけ、北海道は食材が豊富だけでなく、おいしさの追求や機能性の研究も進んでいることをアピールし、海外輸出の拠点をしたいと考えた。

フード特区内に立地する企業に対しては、税金控除や金融・財政支援規制緩和

「国内はもちろん、健康志向が高まりつつある東アジア市場においても、食品の機能性を表示することで新たな市場創出が期待できる。道産食品の利用拡大はもちろん、機能性食品を製造する企業誘致につなげたい」と担当者は語る。

認定は年2回行われ、次の認定申請の募集は来月1日から30日までを予定している。



## 北海道認定

5000億円ともいわれている。しかし、トクホの効果証明の費用には、1商品当たり2〜3億円かかることさ

フード特区内に立地する企業に対しては、税金控除や金融・財政支援規制緩和

認定は年2回行われ、次の認定申請の募集は来月1日から30日までを予定している。